エダマメ・ラッカセイの作り方

特 徴

タンパク質、脂質、糖質、カリウム、ビタミンB1、C、そして食物繊維が豊富で、豆と野菜の両方の要素を備えた栄養価の高い食品です。場所をとらず、やせた土地でもできるので、家庭菜園におすすめです。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
タネまき・収穫			タネまき			収穫						
作業				間引き								
			ポット苗の植えつけ									
					土寄せ							
施肥					追肥							

栽培方法 エダマメ

よく日の当たるところなら、特別のやせ地でない限りよく育ちます。マメ科は根に寄生する根瘤菌が窒素分をつくるため、窒素分を控えた肥料やりをしないと、葉ばかりが茂って実の入りが悪くなります。特にエダマメは肥料がいらないほどです。ただし、乾燥にはやや弱いので、日照りが続くようなら水やりをします。

栽培のポイント

- ●元肥は窒素分を控えめに少量施す
- ●収穫時期を逃さない

タネまき

タネをまく前夜にタネを一晩水につけて発芽しやすくしておきます。暖かくなった4月中旬以降、60cm幅の畝に株間15cm、深さは2～3cmで1 ヵ月に3粒の2条まきにします。元肥は少量の草木灰か少量の化成肥料をやや深めに施す程度で十分です。もっと早くまきたいなら、ポリポットにまいてビニールなどで覆い、暖かい場所で管理します。

間引きと植えつけ

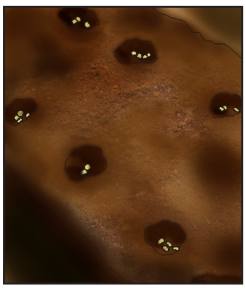
じかまきは本葉が出た頃、2本に間引きます。ポット苗も間引き、本葉2～3枚になったら植えつけます。

追肥・土寄せ

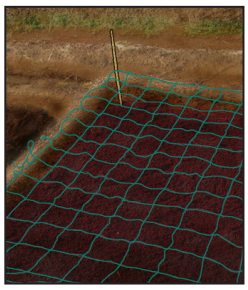
本葉4～5枚で様子を見て化成肥料を少量施します。その後、中耕、株が倒れないよう土寄せを2回ほど行います。

収 穫

タネまき後80～90日でさやがふくらみ、中のマメがやわらかく飛び出してくるうちに収穫します。あまり遅くなるとマメがかたくなってしまいます。茶豆、黒豆もエダマメのうちは緑色です。穫れすぎた時は、すぐに塩ゆでして冷凍します。



株間15cmでまき穴に3粒ほどタネを埋めるようにしてまく。鳥害がひどい時や低温の時期ならポットまきにしてもよい。



覆土をしても鳥が食べることがあるので、本葉が出るまで、鳥よけネットや寒冷紗のトンネルを張る。

本葉4～5枚の頃までに少量の化成肥料を追肥、中耕、土寄せをする。窒素分の多い肥料はやらないこと。

とり遅れは味が落ちるだけでなく、虫害も増えるので、8割ほどのマメがふくらんだところで、株ごと抜き取って収穫します。

病害虫

マラソン

スミチオン

害虫の被害はかなり多く、暖地では開花期以後、さやの中に食い入るシンクイムシや、さやから汁を吸うカメムシ類の防除をしなくては満足な収穫は望めません。**マラソン**、**スミチオン**で防除します。タネをまいた時のハトなどによる食害も大きいので、箱まきにして移植をするか、網をかけて食害を防止します。

特 徴

脂質とタンパク質が主成分で、その他ビタミン類も多く含まれる栄養価の高い食品です。花後に花茎が土にもぐり、地中に豆さやができるところから、落花生の名があります。

栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
タネまき・収穫				タネまき					収穫			
作業					植えつけ	土寄せ	土寄せ					
施肥					元肥							

栽培方法 ラッカセイ

砂質土のような水はけのよい土を好み、25～30度でよく成長します。じかにタネをまく方法もありますが、発芽するまでに鳥やネズミなどに食べられることも多いので、苗を育ててから畑に植えつける方が安全です。

栽培のポイント

- ●高温乾燥、砂質土を好む
- ●開花後は中耕して土寄せをする
- ●収穫後は天日干しをする
- ●実入りは苦土石灰が決め手

タネまき

5月上旬頃、直径10cmぐらいのポリ鉢に水はけのよい砂混じりの土を入れ、一晩水につけたタネを2～3粒、2cmの深さに埋めます。水をたっぷりやって暖かい場所に置き、ビニールなどで覆います。3～4日で発芽したら、1週間に1回、薄い液体肥料を施して本葉3～4枚になるまで育てて畑に植えます。

植えつけ

1㎡あたり苦土石灰5握りを施し、70～80cm幅の畝をよく耕します。元肥は肥沃地では控え、やせ地では1株あたり1握りの化成肥料を施して土とよく混ぜ、掘った土を埋め戻します。株間20～30cmで苗を植えつけます。

追肥・中耕・土寄せ

開花が始まったら、除草して中耕、土寄せをし、受粉したら花の子房柄が土にもぐりやすくしておきます。この時、生育状態がよくないようなら、除草後に化成肥料などを追肥として施しておきます。

収　穫

10～11月に茎葉が枯れ始めたら試し掘りをし、さやに網目ができていたら株ごと掘り上げます。水洗いして畑に積み上げ、4～5日寒風にさらして天日干しにするとおいしくなります。また水洗い後、さやごと塩ゆでにしてから、豆を取り出してもおいしく食べられます。

苦土石灰はたっぷりすき込む。立ち性種なら株間20cm、ほふく性種は30cmで植える。

子房柄がもぐりやすいように除草し、追肥、中耕、土寄せ。雑草よけに敷きわらもよい。

6月下旬～7月上旬に花が咲き、開花後、花が落ちて下を向く。これが土の中にもぐり込んで実をつける。

土にもぐった子房柄の先がふくらんでさやになり、その中に実ができる。

秋に、さやの中の実が充実する。葉が7～8割枯れたら株ごと引き抜き、さっと水洗いして、根を上にして4～5日乾燥して収穫する。

病害虫

さやを食害するのはコガネムシです。未熟な堆肥などを使うと発生しやすくなるので、元肥に気をつけます。空さやが多い場所では、苦土石灰の散布も効果があります。黒渋病や褐斑病は**ベンレート**、**トップジンM**、**ダコニール**で防除します。

※緑の文字は、ディオで取り扱っている商品です。　※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。 禁複製

アヤハディオ

アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ会員募集中!

アヤカポイントも貯まる!

ポイントカード機能

クーポン

最新チラシ

店舗検索

アヤハディオネットショッピング

アプリダウンロードはこちら▶▶

Download on the App Store

ANDROID APP ON Google play